



平成 24 年度第 19 回九州ミッドシニア選手権競技
第 34 回九州グランドシニア選手権競技

競技報告・大会最終R (2012/09/20)

写真と記事：GUK

ミッドシニア

真鍋高光（大博多）が大逆転で初優勝

グランドシニア

宮崎俊介（ジェイズ高原 36）に栄冠

最終日は 20 日、予選を通過した 65 歳以上のミッドシニア 51 選手、70 歳以上のグランドシニア 55 選手（欠場 1 人）が参加して決勝ラウンドが行われた。また、最終日 18 ホールで争われた 80 歳以上のスーパーグランドシニアの部は 26 選手（同 4 人）が参加して元気にラウンドした。

曇りで微風。絶好のコンディションの中で行われた。（曇り、気温 21.8 度、南南東の風 1m＝正午現在）

ミッドシニアは、初日、首位に 4 打差 77 の 6 位タイだった 65 歳の真鍋高光（大博多）がこの日、2 日間を通じてただ一人のアンダーパー、67 をマークし、通算イーブンパー、144 で 2 位の庄司明男（福岡雷山、64 歳）に 4 打差をつけて逆転初優勝した。

庄司に 1 打差の通算 149 の 3 位に前年優勝の中島好巳（チェリー鹿児島シーサイド、66 歳）。さらに 2 打差、151 の 4 位タイに皆吉寿紀（阿蘇東急、72 歳）、嘉陽宗賢（オリオン嵐山、64 歳）、山下柁規（大分東急、64 歳）の 3 人がはいった。

この試合の結果、14 オーバー、14 位タイまでの上位 15 人は日本ミッドシニア選手権競技（11 月 5～6 日、徳島県、タカガワ東徳島 GC）への出場資格を得た。



優勝カップを手に喜びの真鍋高光

グランドシニアは初日 10 位タイの宮崎俊介（ジェイズ高原 36、71 歳）が最終日 73 の好スコアで回り、通算 9 オーバー、153 で逆転して優勝。2 打差の通算 11 オーバー、153 の 2 位タイは梶原鶴雄（佐賀クラシック、71 歳）と堀昭男（美々津、70 歳）の 2 人。さらに 1 打差の 156、4 位は大会 2 日間をエージシュートで回ったベテラン安藤喜三郎（大分中央、79 歳）だった。

初日、74 で首位発進の神原武男（周防灘、70 歳）はこの日 86 をたたき、12 位だった。

前年優勝で 3 連覇がかかっていた鍋井健三（小郡、72 歳）はひじを痛めるなど不調で、通算 30 オーバーの 46 位タイだった。

この試合の結果、上位 12 人は日本グランドシニア選手権（11 月 5～6 日、徳島県、徳島 CC）への出場権を得た。

エージシュート続出

また、グランドの部では今大会、79 歳の安藤のほか、初日 75 で回った 78 歳の吉富省人（ゴールデンパーム）がエージシュートを達成した。



完ぺきなゴルフで初の公式競技タイトル手中に

真鍋高光がただ独り、アンダーパーの 67 をマーク

「実力はあるんですよ。それがなぜ勝てないのか」。真鍋をよく知る昨年の日本ミッドシニアチャンピオンの大川重信（小郡）の話だ。

九州のアマチュア界では知られた存在。選手権などで上位には来るが、不思議と優勝には恵まれなかった。それが、この日は5バーディーの 67。ノーボギーの完ぺきなゴルフで初の公式競技のタイトルを手にした。



真鍋のティーショット

本人も「今日は何もかもがうまくみ合った。ドライバーからアイアン、と全部がよかった」と振り返る。

ピンチらしいピンチは 17 番（パー 5）でドライバーをチョロ。しかし、5 番ウッドを 2 回使ってグリーン周りに運び、寄せワンでパーを拾った。「OK バーディーが 2、3 個あって、アプローチをしないでいいくらいだった」という。

ゴルフは 40 年のキャリア。練習場を経営しているから、練習環境には恵まれている。

65 歳はミッドシニアのルーキー。年齢を重ねると力が落ちてくる。V チャンスはルーキー年にあり、でもある。そういうと、「今日はいけそうな（勝ちそうな）気がした」と、控え目なこの人が自信に充ち溢れたコメントを出してくれた。

このあとの目標は、日本選手権もだが、唯一の団体戦のインタークラブも控える。この日の優勝で「一皮むけた真鍋」を見せてくれるか、期待したい。

(Kiku)



○…2 日間を 78、78 で回った 79 歳の安藤喜三郎 このコースは 9 年前、70 歳になったときの大会で、プレーオフで優勝しており、相性のいいコース。少しずつ調子が上向いてきたかな…。



2 日間ともエージシニエートを記録した安藤喜三郎

最終日 72 と迫ったが 4 位の嘉陽宗賢



○…最終日、72 の好スコアで初日の 15 位タイから 4 位タイへ浮上した嘉陽宗賢 沖縄勢

にとってはベントグリーンは難しい。最終日にやっとタッチが合ってきた感じ。ミスしたのはひとホールぐらいで、今日はパットも良かった。日本選手権に出られるのがうれしい。

スーパーグラウンドの部

植杉乾蔵（球磨）が通算 952 回目のエージシュートを達成して優勝 2 位 瀧脇春雄（南九州）も 86 歳で 84 をマーク

80 歳以上の大ベテランが出場したスーパーグラウンドは、89 歳の植杉乾蔵（球磨）が 78 のスコアで回り、2 位に 6 打差をつけて優勝した。9 年ぶり 2 度目の優勝。自身の記録としては、クラブコンペや各種大会でエージシュートを重ね、「ギネス」ものの通算 952 回目。2 位の瀧脇春雄（南九州）も 86 歳で 84 の好スコアで回り、自身 61 回目のエージシュートを達成した。2 人には開催クラブから記念品が贈られた。



鬼嫁のおかけ？

「色気を出すな！ マイペースで」と植杉



スーパーグラウンドの部は体力を考えて乗用カートの乗車を認めている。しかし、朝一のショット。真っ直ぐ打ち出した植杉は、さっさとフェアウエーを歩き出した。曇り、無風の絶好のコンディション。「ここはコースがきれい。ショット、パットもうまくかみ合った」と満足げな笑顔だった。

「いつも歩くんですか？」には「可能な限り。それの方がリズムが取れるから」と 89 歳という年齢を感じさせない答え。

この人の話題になると、どうしても「エージシュート」（年齢以下のスコアでラウンドすること）のことになる。昨年大会は 800 回を超える記録を作って参加したが、残念ながら試合ではかなわなかった。今年、この試合前までに 951 回を達成して、会場に乗り込んだ。その結果が 3 バーディー、4 ボギー、1 ダブルボギーに 1 トリプル。「バーディーも取れたし、満足」と植杉だった。

50 歳過ぎてからのゴルフ。それを支えてきたのが夫人の千枝子さん（71）食事の管理を徹底して、「私は鬼嫁ですから」と笑う。

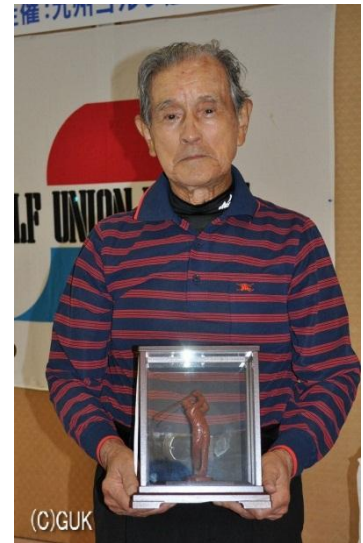
だが、それがなければ、偉大な記録は生まれえない。「色気を出すな、冒険するな、自分のペースで」とひげつを口にするが、これもすべて愛情あふれる鬼嫁の力だろう。



次の目標は 1000 回。「来春には…」と口にした。

「次はクラチャン目標に」 瀧脇春雄

この日、84 で回った 86 歳の瀧脇春雄「OB もあったし、ドライバーが左右にぶれたけど、あとは問題なかった」。大会前日に 60 回目のエージシュートを出したばかりで、61 回目を公式競技で記録してにっこりだった。



ミッドは山下柁規（大分東急）と庄司明男（福岡雷山）がトップ並走 グランドは神原武男（周防灘）が単独首位



トップに並んだ山下柁規

は5オーバーの77で、皆吉寿紀（阿蘇東急、72歳）らとともに6位タイ発進。

ミッドシニア、グランドシニアともに第1ラウンドが19日、鹿児島県霧島市の溝辺カントリークラブで行われた。

65歳以上のミッドの部68人（欠場2人）、70歳以上のグランドの部には80人（同5人）が出場。台風一過の好天のもと、熱い戦いが繰り広げられた。

ミッドシニアは山下柁規（大分東急）が6バーディー、5ボギー、1ダブルボギーの1オーバー、73とし、庄司明男（福岡雷山）も2バーディー、3ボギーで回り、首位に並んだ。2人とも65歳で、ミッドシニア選手権のルーキー。これを2打差の75、3位タイで尾島純市（南九州、65歳）と中島文章（大分中央、66歳）の2人が追走。さらに1打差76の5位に中石典久（那覇、66歳）がつけた。

前年優勝で大会2連覇を目指す中島好巳（チェリー鹿児島シーサイド、66歳）



初日首位タイの庄司明男

グランドは2人がエージシュートを達成

78歳の吉富省人（ゴールデンパーム）が75

79歳の安藤喜三郎（大分中央）が78



安藤喜三郎

グランドシニアは、2バーディー、4ボギーの2オーバー、74で70歳の神原武男（周防灘）が単独首位。これを1打差の75で吉富省人（ゴールデンパーム、78歳）が2位につけ、さらに3打差、78の3位タイに安藤喜三郎（大分中央、79歳）と、井上裕之（湯の浦、69歳）、梶原鶴雄（佐賀クラシック、71歳）の3人がつけた。吉富は78歳で75のスコア、安藤は79歳で78のスコアといずれもエージシュートだった。



吉富省人

連盟主催競技特有の深いラフ、難しいピンの位置に選手はスコアメイクに苦心した。

そんななか、ミッドの山下は出だしていきなりバーディーと幸先いいスタート。前半を4バーディー、2ボギーで回った。しかし後半は10番でバンカーの淵に入れてボギー、12番で深いラフに打ち込みダブルボギーなど、4ホールで5オーバーとして崩れかけたが、16、17番と連続バーディーを奪い、望みをつないだ。



初日単独トップの神原武男

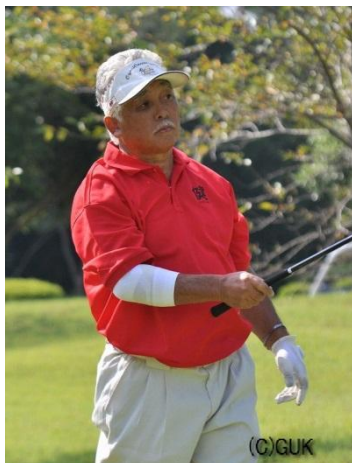


《ミッドシニア》

○…首位タイの山下紘規 アイアンが切れてピンにデッドにつけられた。けど、インはバンカーの淵に入れたり、3パットもあり、12番で右ラフからダボ。インコースはタフ。明日はインコースをどう攻めるかでしょう。欲を出さないことも大事だけど…。

○…首位に並ぶ庄司明男 ショットはまあまあだったが、セカンドの距離感が合わなかった。まずは日本選手権の出場権を。チャンスがあれば優勝目指したい。自分を忘れず、自分のゴルフができるかどうかがかぎでしょう。

○…前年優勝で連覇を目指す中島好巳 (5オーバー、6位タイに) アプローチ、パターはなんとかよかったが、ショットが…。14番(パー5)でドライバーでフェードかけるつもりが真っ直ぐ行ってトラブル。5打目はバンカーに入れて6オンのトリプル。あれで終わった。最終日はディフェンディングチャンピオンの意地もあるし、巻き返したい。



大きく出遅れた鍋井健三

《グランドシニア》

○…単独首位の神原武男 フェアウエーキープを心がけ、大事に打っていった。というのも、腰を痛め、かばって無理してヒザを痛めていた。おまけに、インコースに入って足もつって…。明日は無理せずを心がけ、我慢のゴルフに徹する。投げ出したら終わりだから。

○…1打差で2位の吉富省人 70歳過ぎたら飛距離が落ちる。グリーン周りのアプローチで拾いまくった感じ。日本選手権に出たい。明日も今日と一緒にけど、ボギーをなくしたい。

○…大会3連覇を目指した鍋井健三だが、満身創痍 ぎっくり腰に続き、ひじを痛めてしまった。しかし、クラブを振れる出場しないと。ディフェンディングチャンピオンが欠場するわけにはいかんでしょ。

庄司はインスタートの前半で1バーディー、2ボギーと1オーバーのあと、後半は1バーディー、1ボギーと手堅くパープレーにまとめた。

グランドシニアの神原は、軸足の右ひざを痛めていたうえに、後半は足がつるなど苦戦の連続だったが、“大事に打っていった、”と2オーバーの74にまとめた。

大会3連覇がかかった鍋井健三(小郡、72歳)は右ひじを痛めており、87をたたいて43位タイと大きく出遅れた。

コンディションは晴れ、気温25.1度、西の風4m(正午現在)。



連覇を目指す中島好巳

は

溝辺CC (鹿児島) で明日から開催

最終日には 80 歳以上の “スーパーグランドシニア” も実施

ミッドシニア、グランドシニアの両九州選手権が 19 日、鹿児島県霧島市の溝辺カントリークラブ (ミッド 6474 ㌦、グランド 6115 ㌦=パー72) で開幕する。

参加資格は、ミッドシニアが 65 歳以上で JGA ハンディキャップ 18.4 まで、グランドシニアが 70 歳以上で同 24.4 まで (年齢は今年 12 月 31 日現在)。各県地区予選の通過者や前年度九州、日本選手権の上位者らがシードされ、計 155 人がエントリー。

グランドシニア選手権には、選手権のほかに 80 歳以上 (JGA ハンディキャップ 27.4 まで) の “スーパーグランドシニア” の部も設けられており、今大会には 30 人がエントリー。最終日に 18 ホールストロークプレー (5521 ㌦、パー72) で争われる。昨年まで行われていた年齢別表彰は、80 歳以上の部を除いて廃止された。

大会は初日の 19 日が予選ラウンドで、ミッド、グランド計 100 人が最終日 20 日の決勝ラウンドへ進出する。各県地区で行われた予選参加者は、ミッドシニアが 274 人、グランドシニアが 320 人。

会場の溝辺CCは 1995 年 (平成 7 年) の開場。著名なコース設計家、小林光昭氏の手になるもので、池やスギ林が絡んだ丘陵コース。九州ミッド・グランドシニア選手権は 2003 年以來、2 度目の開催になる。

初日の競技は 19 日午前 7 時 30 分、アウト、イン同時にティーオフの予定。

